ダーの「新機能主義学派」などはこのような趨勢を代表している。もう一つは科学精神と人文精神の融合である、ギデンズの社会構造論などは科学主義に対する批判から生まれた理論である。

社会学学科の総合的な趨勢は固有な学問上、理論上の論理を持っているが、根本的には社会実際プロセスの反映である。社会実践の中で各理論は容易にその短所と長所を露出させるが、社会の発展につれて、社会学研究対象の各部分の複雑な連結はもっとはっきりとした形で現れてくる。

中国社会学は見えざる壁が存在する西洋社会学のような学派がないが、異なる学者の理論志向は時には衝突する。中国の現在の各社会学理論は中国社会の異なる側面に対する解釈に過ぎない、最終的には社会実践の中で一緒になると思う。中国社会発展の加速は、社会学の学術実践をますます深めてゆく。各社会学理論の長所と弱点もますます明らかに現れてくる。社会学の対象の相互連結ももっとはっきりとする。中国社会の全面かつ急速な発展は、社会学に全面かつ正確な描写と解釈を提供することを要求し、これらは中国社会学の発展に有利な面を与える。

中国社会の発展加速は、中国社会学の発展加速に物質的な条件をもたらした。まず、現代情報技術、電子技術と急速な交通手段の発展は、社会学者が速やかに全面的に社会の発展と最新動態をいち早く把握することを助けている。同時に、社会学理論学派間の交流に役立っている。たとえば現在のコンピューターネットワークの応用によって、世界各地に散在している社会学者が社会学に関する最新情報を追跡することができる。効率よく学術的な交流を行うことができる。次は、社会の発展はその他の学科の発展ももたらす。たとえば、社会調査法には数学の確率論の発展がなければ不可能である。最後に、社会の発展は、社会学者の学術実践に物質保障を提供することができる。中国社会学者はコンピューターの使用、文字処理とデータ処理において、その他の人文科学より先端に立つべきであると思う。

第四、中国社会学の成熟化趨勢

中国社会学は70年代末において復興され、これまでの20年間で輝かしい成績を収めた。しかし、全体的に見ると、成熟度がそれほど高くない。主に理論、方法と応用などの面での不成熟である。①社会学基礎理論研究においてまだ相対的に薄弱である。多くの社会学理論の探索的な試みがあったが、全体的にはまだ弱い。社会学の規範化、社会学の本土化、社会学研究方法論および学科地位、性質、対象などの学科建設の基本問題において、さらに広く開拓する余地があり、深めていく必要がある。②研究層の次元が比較的低い。研究は社会変革の実際問題に偏り、基礎理論からのバックアップが欠けている。課題の中低層の社会描写と対策研究が多すぎる。高いレヴェルの理論モデルが形成されていないし、国家の社会発展計画、方針、政策に対して、想定したように影響力のある提案と諮問を提供することができていない。③実証研究の手段が多いが、(技術的に) 遅れている。研究の多くは実証的な社会調査に傾いているが、理論的な仮説は事後的な帰納と総括が多い。調査結果の開発レヴェルの次元が低い。統計分析方法の水準もあまり高くないので、深めていく分析が欠けている。社会指標体系の理論と実践、社会調査の方法と技術などの予備的な研究が物足りない。調査研究はほとんどバラバラで行われていて、システム化が欠けている。データの共有と比較程度が比較的低い。調査研究は国際の通用手法へのリンクが欠けている。ある意味において、早く社会調査のレヴェルと次元を高めることは、今日の中国社会学発展の急務である。④国際比較の立場から見ると、中国社会学分科の発展は内容的にそれほど豊富ではなく、さらに改善されるだろう。ある統計データによると、海外の社会学の分科は現在170類がある。それぞれの分科は社会的な職業が用意されているようであるが、中国の社会学の分科は職業への結びはそれほどない。社会的とくに必要な専門知識は、たとえば社会調査学、社会保障学、ソーシャルワーク等は職業への結び付きができているが、これを除いて、その他の分科、学科がほとんど書斎の研究作業である。一つは社会職業の分化、発展が必要であるが、もう一つは社会学研究者の現実に奉仕する研究態度と研究精神が必要である。⑤一部分の社会学研究者の中には、とくに若い青年社会学研究者が、社会学は科学と価値の統一であるという基本属性に対する認識を自覚していない。